

グリーンロジスティクスチェックリスト 調査結果の概要

ロジスティクス環境会議 事務局




0. はじめに



本日のプログラム構成		ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
時刻	内容	
13:35～ 14:00	【報告】 グリーンロジスティクスチェックリスト調査結果の概要 ロジスティクス環境会議 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・自社のポジショニング ・施策の難易度 →持ち帰って参照いただくための情報
14:00～ 14:50	【講演1(包装)】 スタッキングチェア「Daylight」におけるエコロジー&エコノミーデザインへの挑戦!! —2009 日本パッケージングコンテスト経済産業大臣賞 「輸出用イスの40脚包装の開発」について— 井関 徹 氏(愛知株式会社 総合企画室 デザイン開発G 次長)	
	【休憩】	
15:00～ 15:50	【講演2(輸送)】 JUKIIにおけるグリーン物流・モーダルシフトへの取り組み —2005年6回鉄道貨物振興奨励賞・最優秀賞受賞、 2008年第1回住田物流奨励賞受賞事例を中心として— 荻原 克郎 氏(JUKI株式会社 工業用ミン事業部 物流管理部 主査)	
	【休憩】	
16:00～ 16:50	【講演3(施設)】 物流施設における省エネ・環境配慮の実現 —第1回大阪サステナブル建築賞 特別賞受賞事例— 楠本 銀次郎 氏(日本通運株式会社 営業企画部 専任部長)	

3

		ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
<h1>1. グリーンロジスティクス チェックリストとは？</h1>		
		

4

1-1. グリーンロジスティクスチェックリストとは

分類	No.	チェック項目	実施度合い				参考事例、関連情報等
			1. 出来ていない	2. 進められていない	3. 進捗中	4. 出来ている	
企業	1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	企業の環境方針、行動計画等を策定していない。	企業の環境方針、行動計画等を策定しているが、トップのコミットメントが不明確な場合がある。	企業の環境方針、行動計画等を策定しているが、トップのコミットメントが明確である。	企業に追加、企業の環境方針については、社内のみならず外部へも積極的に公表している。	トヨタ自動車株式会社「グリーン経営戦略」 http://www.toyota.co.jp/green/strategy.html トヨタ自動車株式会社「環境報告書」 http://www.toyota.co.jp/ir/2019/01/20190101_01.html
	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。	ロジスティクス分野における方針が策定されていない。	ロジスティクス分野における方針が策定されているが、環境委員会や環境部門での連携が不十分である。	ロジスティクス分野における方針が策定されているが、環境委員会や環境部門での連携が十分である。	企業に追加、環境委員会や環境部門との連携が強化されている。	トヨタ自動車株式会社「グリーン経営戦略」 http://www.toyota.co.jp/green/strategy.html トヨタ自動車株式会社「環境報告書」 http://www.toyota.co.jp/ir/2019/01/20190101_01.html
	3	グリーンロジスティクス推進する体制が構築されている。	グリーンロジスティクス推進する体制が構築されていない。	グリーンロジスティクス推進する体制が構築されているが、推進体制が不十分である。	グリーンロジスティクス推進する体制が構築されているが、推進体制が十分である。	企業に追加、業務的に業務に統合されている。	トヨタ自動車株式会社「グリーン経営戦略」 http://www.toyota.co.jp/green/strategy.html トヨタ自動車株式会社「環境報告書」 http://www.toyota.co.jp/ir/2019/01/20190101_01.html
	4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、開始されている。	グリーンロジスティクス推進に向けた計画が策定されていない。	グリーンロジスティクス推進に向けた計画が策定されているが、開始されていない。	グリーンロジスティクス推進に向けた計画が策定されているが、開始されている。	企業に追加、業務的に業務に統合されている。	トヨタ自動車株式会社「グリーン経営戦略」 http://www.toyota.co.jp/green/strategy.html トヨタ自動車株式会社「環境報告書」 http://www.toyota.co.jp/ir/2019/01/20190101_01.html
	5	グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育・人材育成を行っている。	グリーンロジスティクス推進のための教育・人材育成を行っているが、教育・人材育成が不十分である。	グリーンロジスティクス推進のための教育・人材育成を行っているが、教育・人材育成が十分である。	グリーンロジスティクス推進のための教育・人材育成を行っているが、教育・人材育成が十分である。	企業に追加、業務的に業務に統合されている。	トヨタ自動車株式会社「グリーン経営戦略」 http://www.toyota.co.jp/green/strategy.html トヨタ自動車株式会社「環境報告書」 http://www.toyota.co.jp/ir/2019/01/20190101_01.html

特長1：全86項目 活動推奨チェック項目
 ⇒ 環境方針展開、組織体制構築から、物流部門にとって身近な活動項目、さらには他部門・パートナーとの連携を意識した活動項目まで網羅

特長2：1～4迄の4段階の実施レベル(活動水準)評価

特長3：豊富な参考事例・関連情報の掲載(行政・団体・企業等)
 → 09年度、45項目を更新
 (G物流P推進事業 事例集、北海道経済産業局 物流省エネ事例集等)

1-2. グリーンロジスティクスチェックリストへの回答

分類	No.	チェック項目	実施度合い				参考事例、関連情報等
			1. 出来ていない	2. 進められていない	3. 進捗中	4. 出来ている	
企業	1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	企業の環境方針、行動計画等を策定していない。	企業の環境方針、行動計画等を策定しているが、トップのコミットメントが不明確な場合がある。	企業の環境方針、行動計画等を策定しているが、トップのコミットメントが明確である。	企業に追加、企業の環境方針については、社内のみならず外部へも積極的に公表している。	トヨタ自動車株式会社「グリーン経営戦略」 http://www.toyota.co.jp/green/strategy.html トヨタ自動車株式会社「環境報告書」 http://www.toyota.co.jp/ir/2019/01/20190101_01.html
	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。	ロジスティクス分野における方針が策定されていない。	ロジスティクス分野における方針が策定されているが、環境委員会や環境部門での連携が不十分である。	ロジスティクス分野における方針が策定されているが、環境委員会や環境部門での連携が十分である。	企業に追加、環境委員会や環境部門との連携が強化されている。	トヨタ自動車株式会社「グリーン経営戦略」 http://www.toyota.co.jp/green/strategy.html トヨタ自動車株式会社「環境報告書」 http://www.toyota.co.jp/ir/2019/01/20190101_01.html
	3	グリーンロジスティクス推進する体制が構築されている。	グリーンロジスティクス推進する体制が構築されていない。	グリーンロジスティクス推進する体制が構築されているが、推進体制が不十分である。	グリーンロジスティクス推進する体制が構築されているが、推進体制が十分である。	企業に追加、業務的に業務に統合されている。	トヨタ自動車株式会社「グリーン経営戦略」 http://www.toyota.co.jp/green/strategy.html トヨタ自動車株式会社「環境報告書」 http://www.toyota.co.jp/ir/2019/01/20190101_01.html
	4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、開始されている。	グリーンロジスティクス推進に向けた計画が策定されていない。	グリーンロジスティクス推進に向けた計画が策定されているが、開始されていない。	グリーンロジスティクス推進に向けた計画が策定されているが、開始されている。	企業に追加、業務的に業務に統合されている。	トヨタ自動車株式会社「グリーン経営戦略」 http://www.toyota.co.jp/green/strategy.html トヨタ自動車株式会社「環境報告書」 http://www.toyota.co.jp/ir/2019/01/20190101_01.html
	5	グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育・人材育成を行っている。	グリーンロジスティクス推進のための教育・人材育成を行っているが、教育・人材育成が不十分である。	グリーンロジスティクス推進のための教育・人材育成を行っているが、教育・人材育成が十分である。	グリーンロジスティクス推進のための教育・人材育成を行っているが、教育・人材育成が十分である。	企業に追加、業務的に業務に統合されている。	トヨタ自動車株式会社「グリーン経営戦略」 http://www.toyota.co.jp/green/strategy.html トヨタ自動車株式会社「環境報告書」 http://www.toyota.co.jp/ir/2019/01/20190101_01.html

回答欄には実施度合い(1, 2, 3, 4)、もしくは0(該当しない)の5つのうち該当する番号をご回答下さい。

回答欄

◇調査の目的

企業の皆様に環境取り組みのベンチマークをしていただく

回答企業では、

- ①回答時の自己チェック
- ②簡易診断結果による他社との比較

WGでは、

- ①集計・分析結果の取りまとめ、公表
- ②簡易診断結果の送付
- ③報告会の開催

◇調査の経過

- ・2009年 9月～11月 調査実施
- ・2009年 11月～12月 集計
- ・2010年 1月 簡易診断結果送付

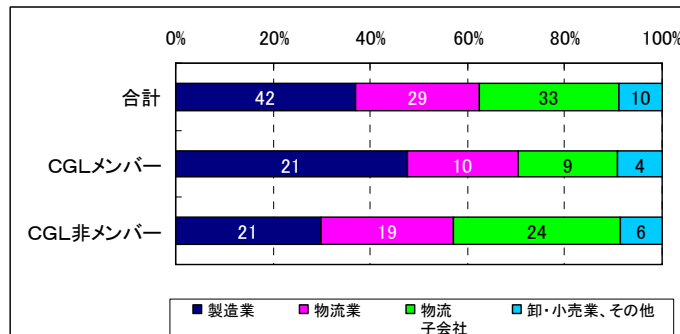


2. グリーンロジスティクス チェックリスト調査結果



2-1. 回答数

		合計	業種別			
			製造業	物流業	物流 子会社	卸・小売業 、その他
回答数		114	42	29	33	10
うち連続回答数		68	28	13	20	7
CGL	CGLメンバー	44	21	10	9	4
	CGL非メンバー	70	21	19	24	6

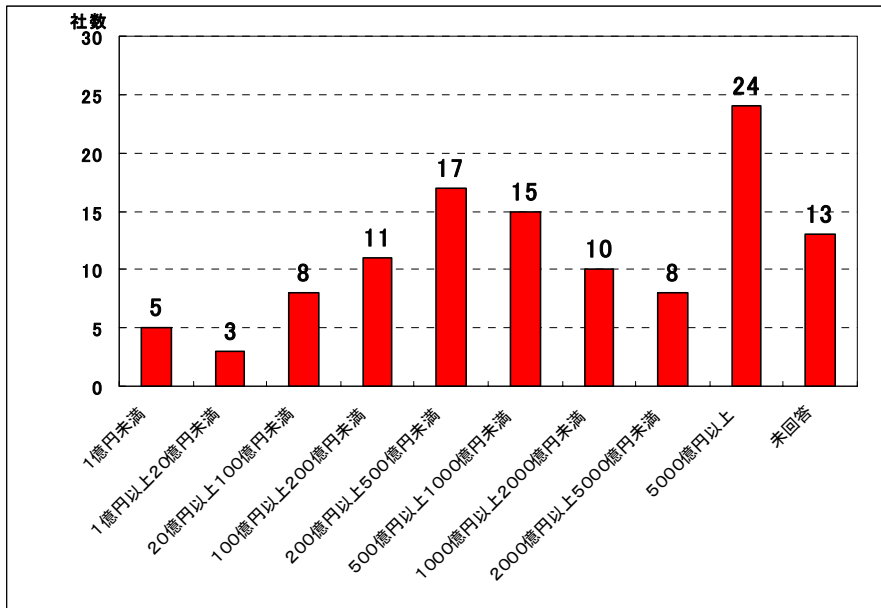


2-2. 調査に御協力いただいた企業一覧

愛知陸運株式会社	住化ロジスティクス株式会社	パナソニック株式会社
アサヒビール株式会社	住友電気工業株式会社	株式会社バンダイロジバル
味の素株式会社	ソニー株式会社	株式会社日立物流
いすゞドライネックス株式会社	第一貨物株式会社	富士通株式会社
一宮運輸株式会社	ダイハツ輸送株式会社	富士物流株式会社
SRIロジスティクス株式会社	株式会社ダイフク	フットワークエクスプレス株式会社
NECロジスティクス株式会社	太陽誘電株式会社	堀江急配株式会社
株式会社岡村製作所	月島食品工業株式会社	株式会社ホンダロジスティクス
株式会社オカムラ物流	テラーメイドゴルフ株式会社	三井化学株式会社
オリンパスロジテックス株式会社	トーンサービス株式会社	三菱ガス化学株式会社
花王株式会社	東罐ロジテック株式会社	三菱電機ロジスティクス株式会社
カシオ計算機株式会社	東芝物流株式会社	株式会社村田製作所
加藤産業株式会社	東洋製罐株式会社	郵船航空サービス株式会社
キヤノン株式会社	トーセロ・ロジスティクス株式会社	郵便事業株式会社
キュービー株式会社	株式会社トブコン	株式会社ユーネットランス
協栄流通株式会社	トヨタL&F中部株式会社	雪印乳業株式会社
鴻池運輸株式会社	豊田スチールセンター株式会社	吉川運輸株式会社
コカ・コーラウエストロジスティクス株式会社	トヨタ自動車株式会社	リコーロジスティクス株式会社
国分株式会社	トヨタ部品大阪共販株式会社	
三洋電機ロジスティクス株式会社	日触物流株式会社	
株式会社J-オイルミルズ	日本トランスシティ株式会社	
シスメックス株式会社	日本ビジネスロジスティクス株式会社	
新日石プラスト株式会社	日本ロジテム株式会社	

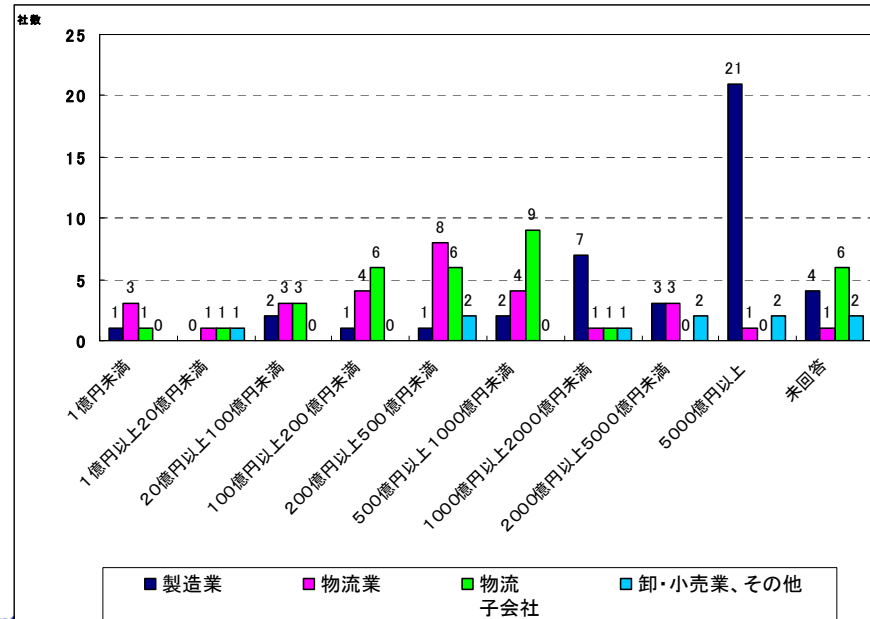
* フェイスシートで企業名公表の承諾を
いただいた企業名のみ掲載しております。

2-3-1. 回答数(年間売上高別_全社)



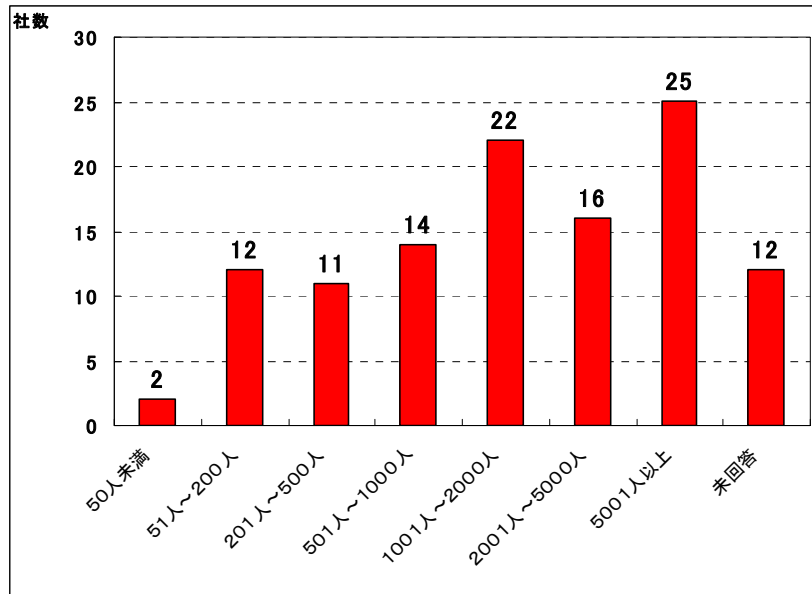
→5,000億円以上が約21%を占める。

2-3-2. 回答数(年間売上高別_業種別)



→5,000億円以上の大半は「製造業」が占める。

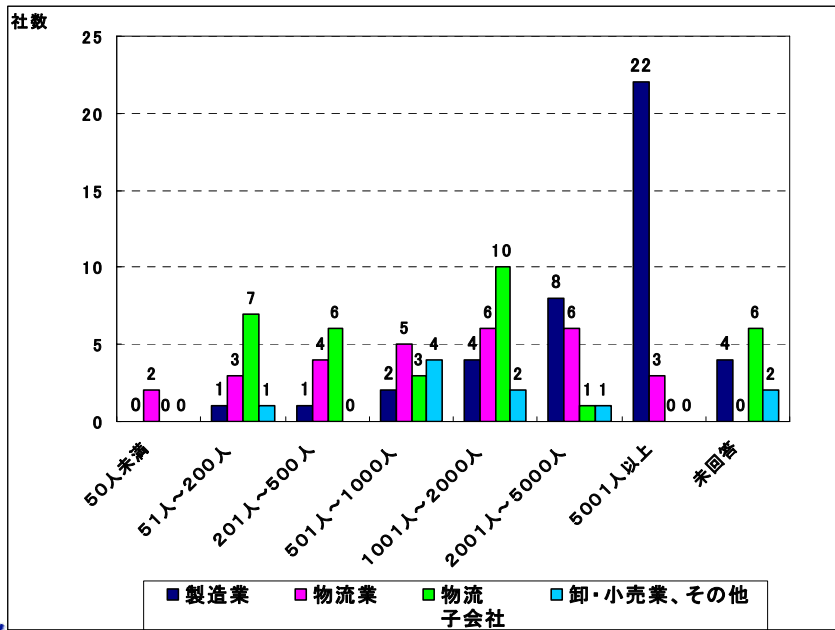
2-4-1. 回答数(従業員数別 全社)



→5,001人以上が約22%を占める。



2-4-2. 回答数(従業員数別 業種別)



→5,001人以上の約半数が「製造業」



◇回答の方法

- ・実施度合い(1, 2, 3, 4)、もしくは0(該当しない)の5つのうち該当する番号を回答

◇平均点の定義

- ・0(該当しない)という回答を除いて、集計

例

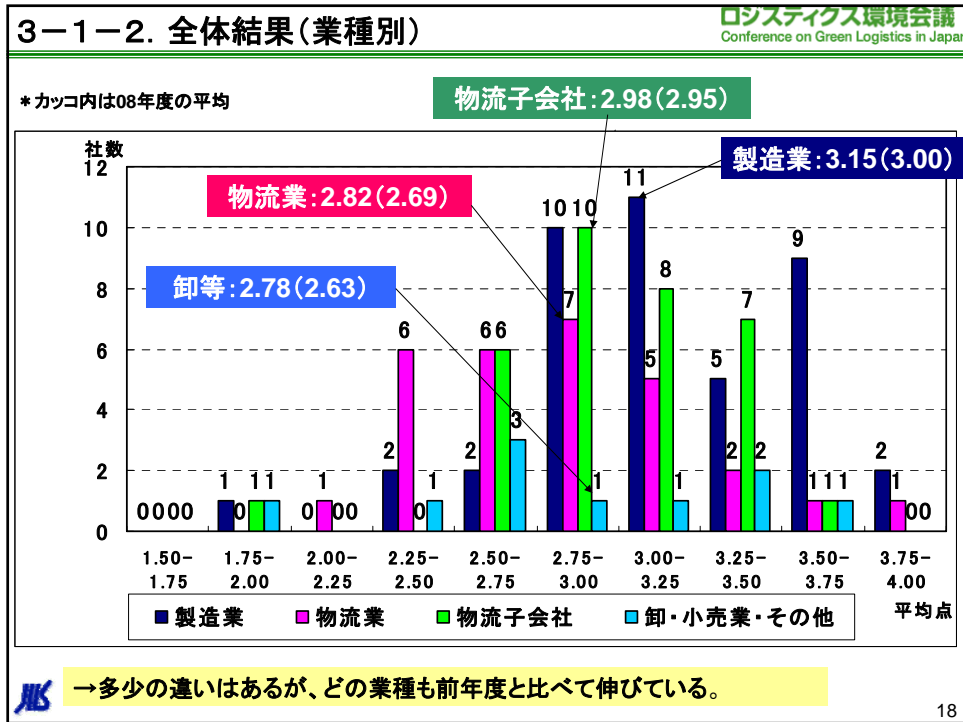
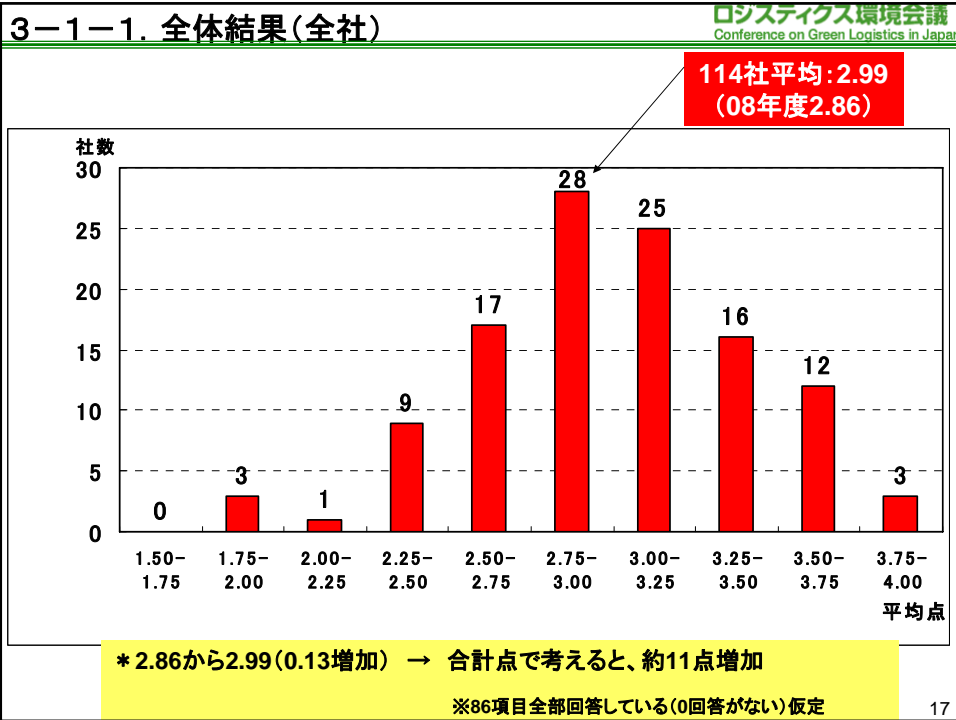
A社	1	}	$(1+2+3+4+0) / 5 = 2.0$
B社	2		
C社	3		
D社	4		$(1+2+3+4) / 4 = 2.5$
E社	0		

こちらで
算出

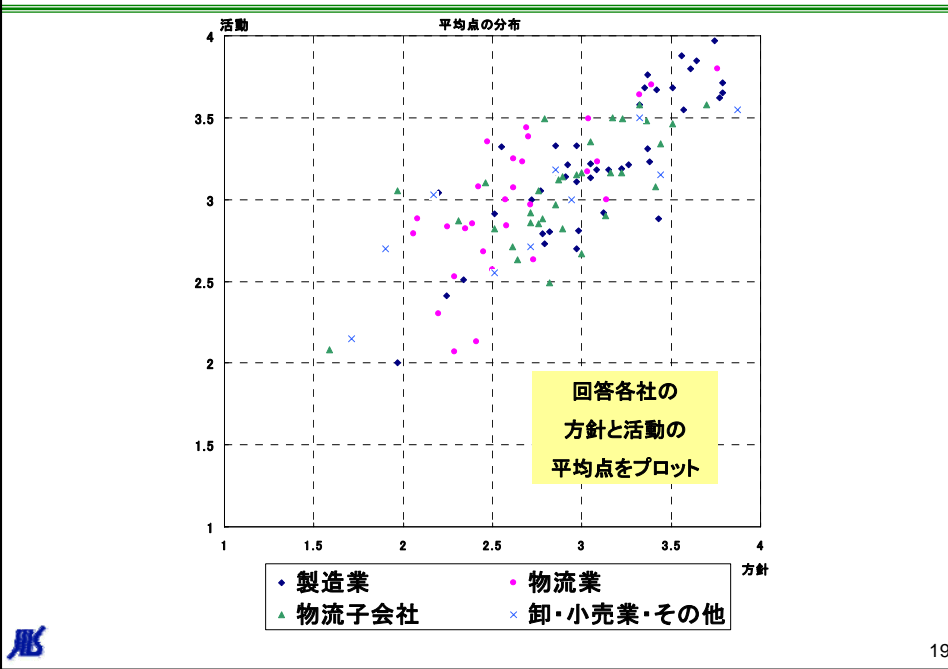
→本チェックリスト調査の平均点も1~4点の間となる

【目的1】 自社のポジショニングを探る

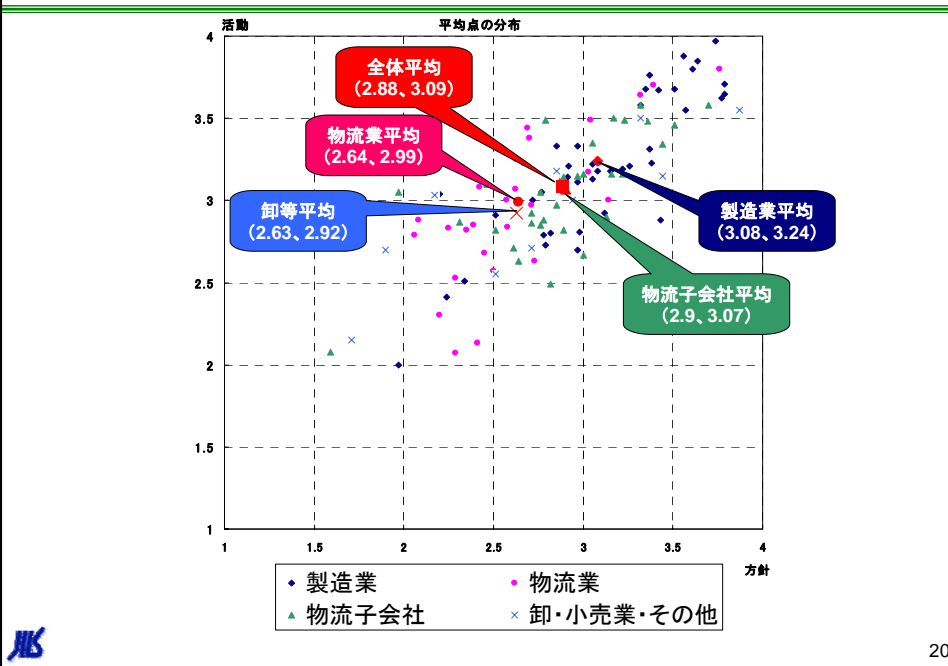
- ・全体結果(全社)
- ・全体結果(業種別)
- ・方針一活動別結果(全社・業種別)
- ・連続回答企業における方針一活動別結果
(製造業、物流業、物流子会社、卸等)
- ・連続回答企業における方針一活動別増減



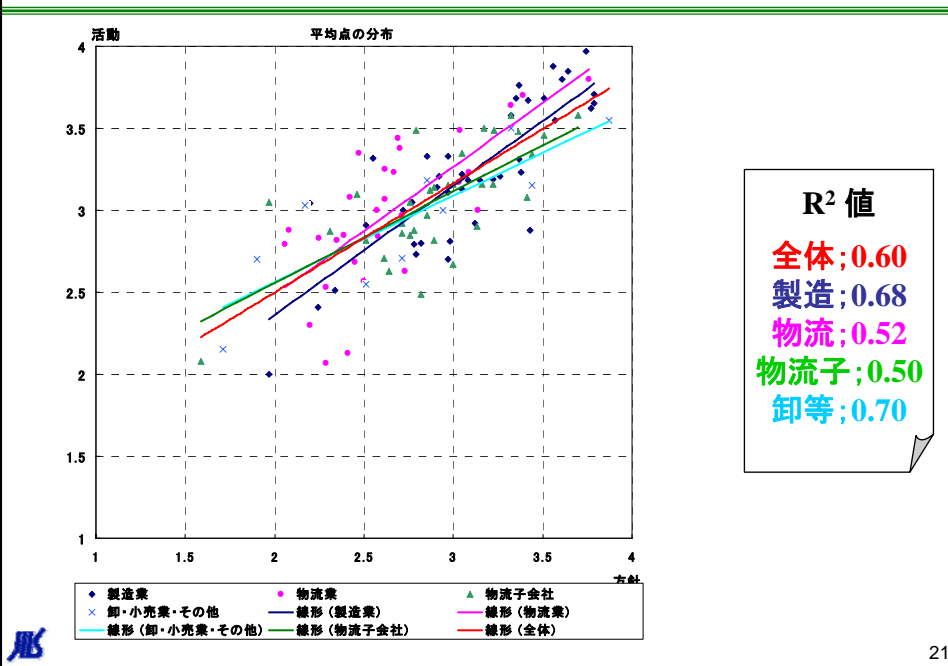
3-2-1. 方針一活動別結果(09年度114社)



3-2-2. 方針一活動別結果(09年度114社、平均)



3-2-3. (参考)方針/活動の平均点の関係



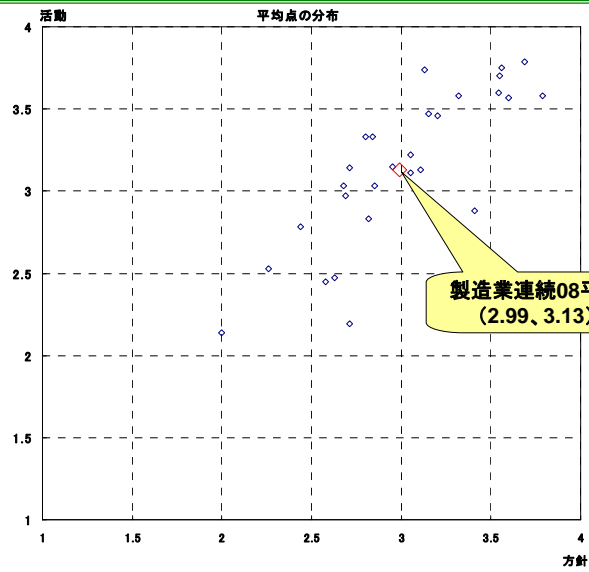
3-3-0. 連続回答企業における方針—活動別結果

スライド23から38の説明

1. 08年度の分布 (連続回答企業のみ)	3. 08と09年度の両方の分布(1+2)
2. 09年度の分布 (連続回答企業のみ)	4. 09年度の分布 (全社 (連続企業+新規企業))

スライド23~26: 製造業
 スライド27~30: 物流業
 スライド31~34: 物流子会社
 スライド35~38: 卸等

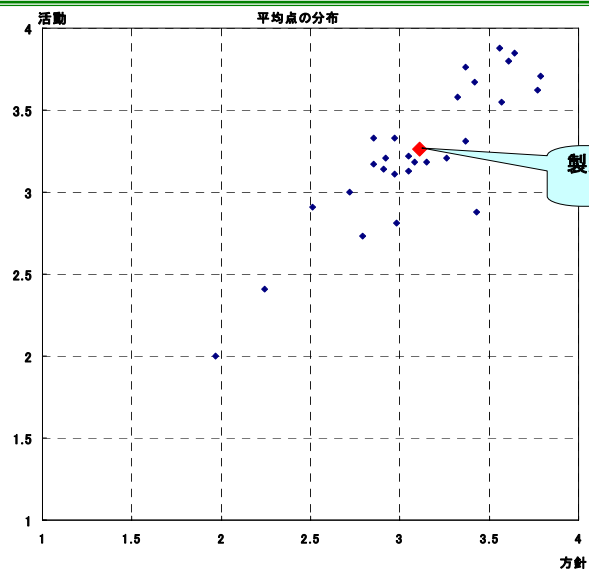
3-3-1. 製造業(連続回答企業(28社)08年度、平均)



◇ 製造業



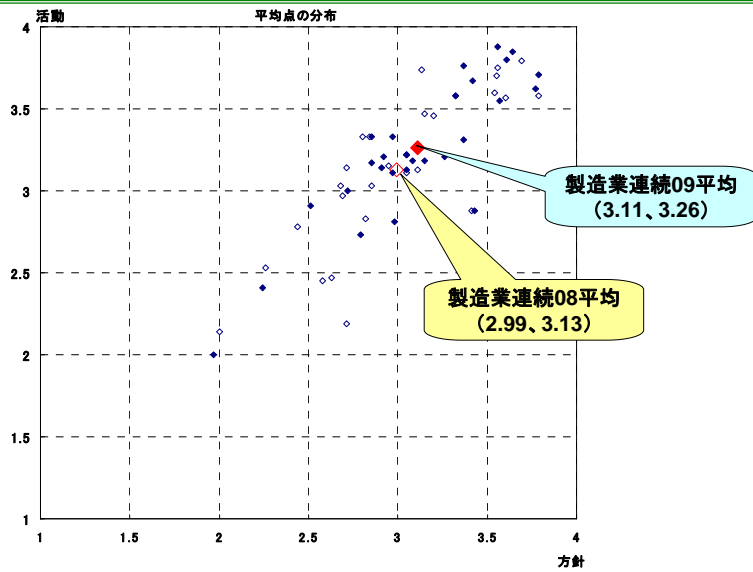
3-3-2. 製造業(連続回答企業(28社)09年度、平均)



◇ 製造業



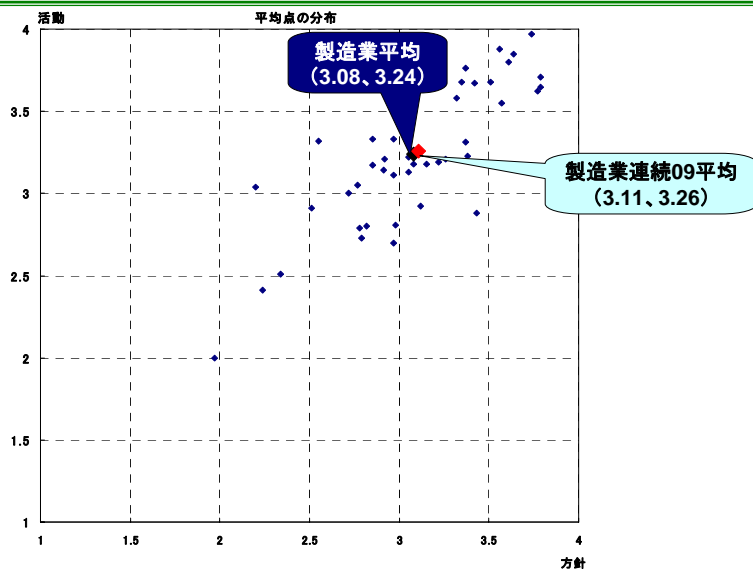
3-3-3. 製造業(連続回答企業(28社)0809年度、平均) ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan



・08年度平均点以下だった企業が、08年度平均点付近まで点数が伸びている



3-3-4. 製造業(連続回答企業(28社)09年度+新規企業、平均)

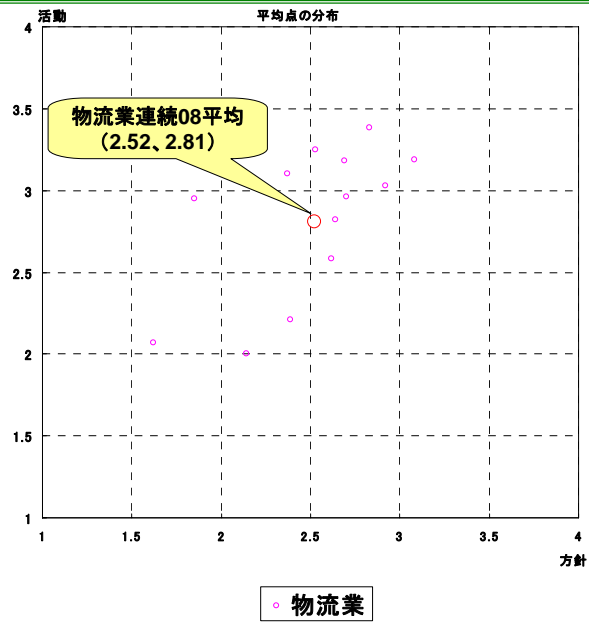


◆ 製造業

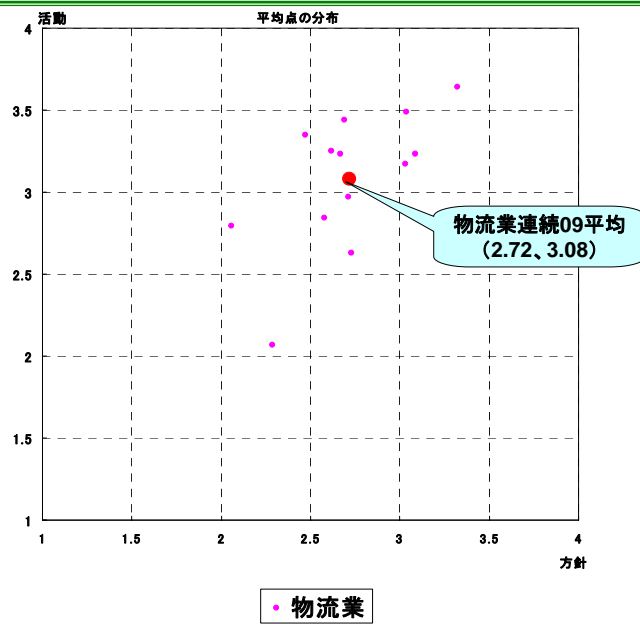
→連続回答企業の平均の方が若干高い。



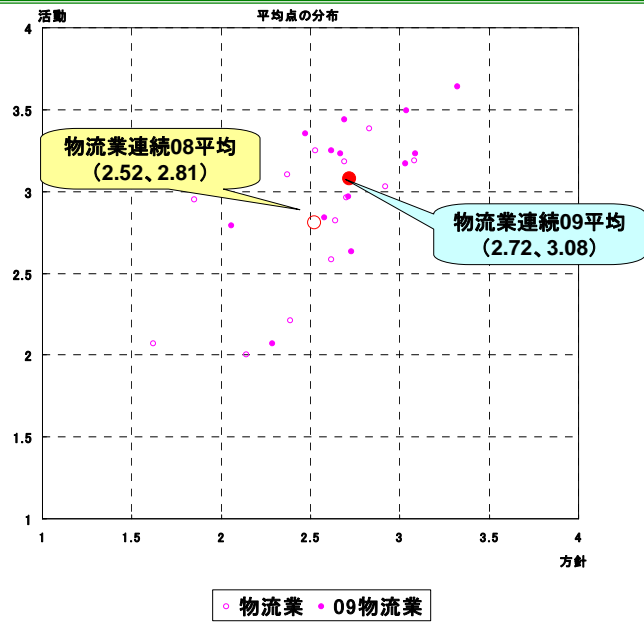
3-4-1. 物流業(連続回答企業(13社)08年度、平均)



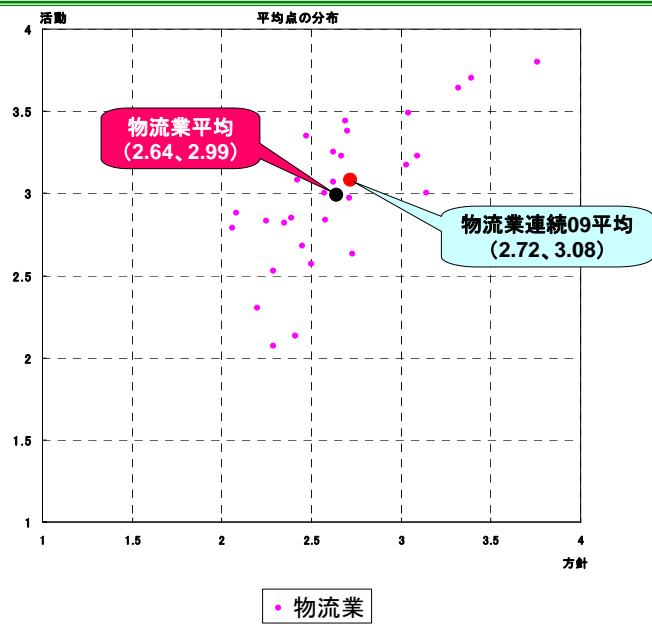
3-4-2. 物流業(連続回答企業(13社)09年度、平均)



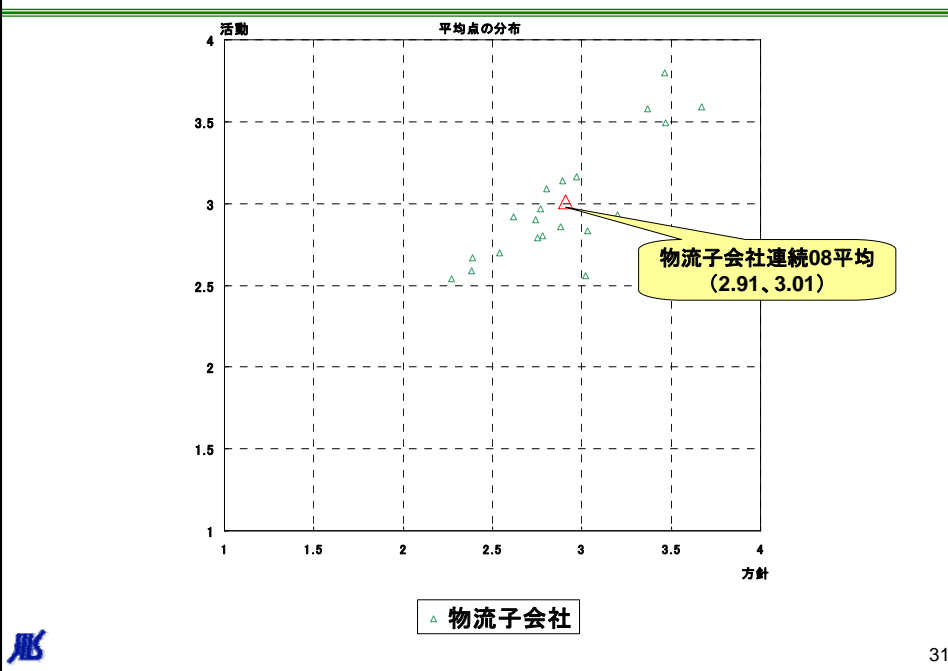
3-4-3. 物流業(連続回答企業(13社)0809年度、平均) ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan



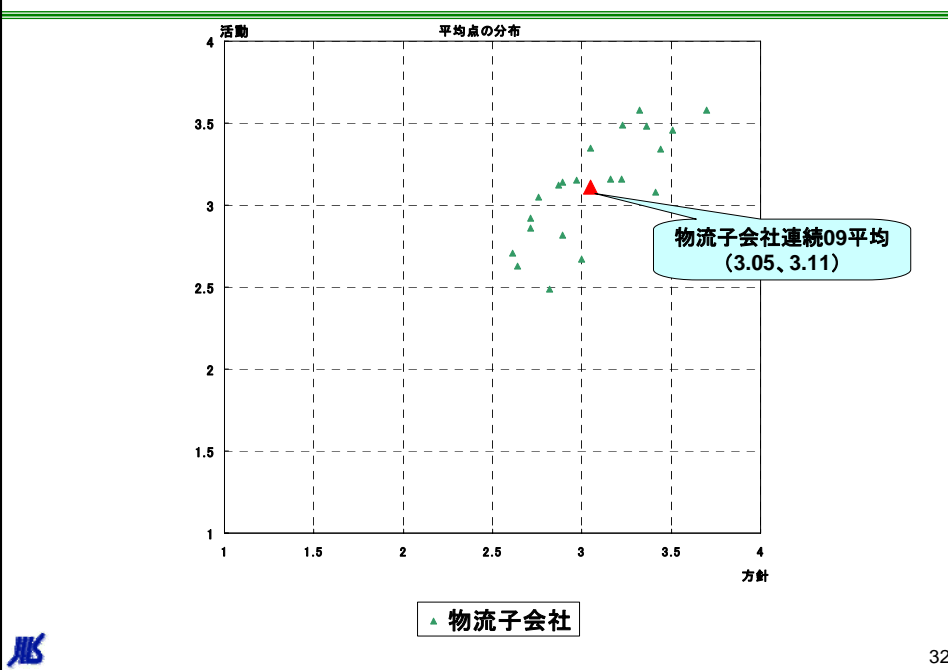
3-4-4. 物流業(連続回答企業(13社)09年度+新規企業、平均)



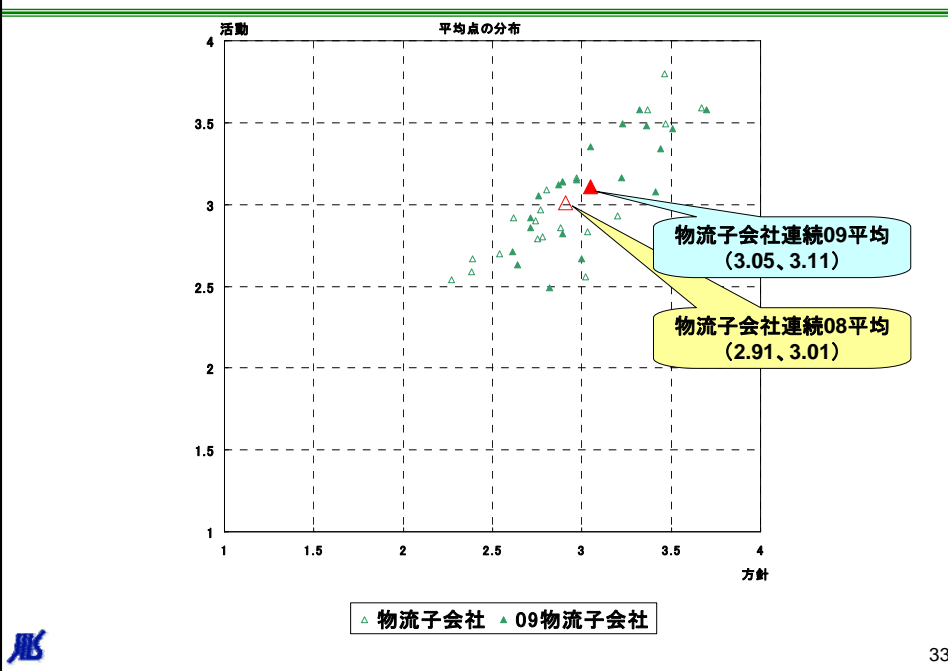
3-5-1. 物流子会社(連続回答企業(20社)08年度、平均)



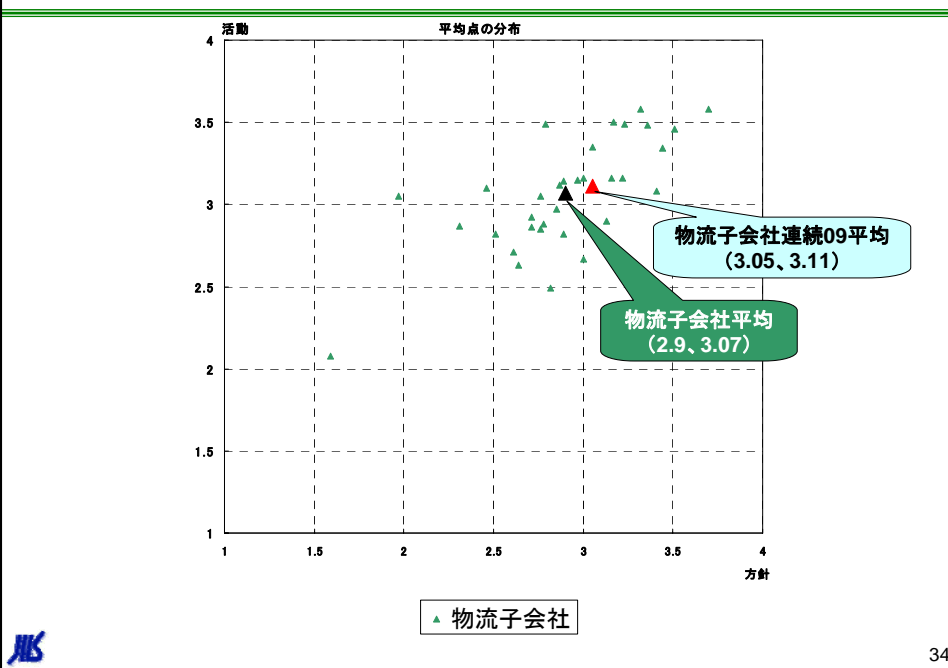
3-5-2. 物流子会社(連続回答企業(20社)09年度、平均)



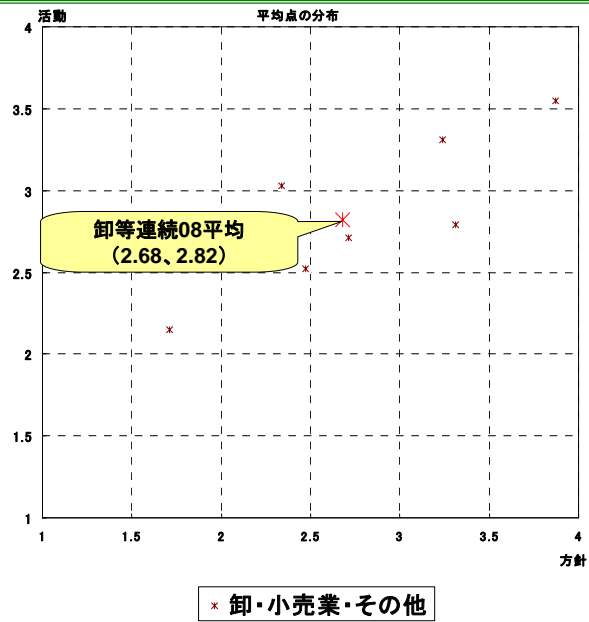
3-5-3. 物流子会社(連続回答企業(20社)0809年度、平均)



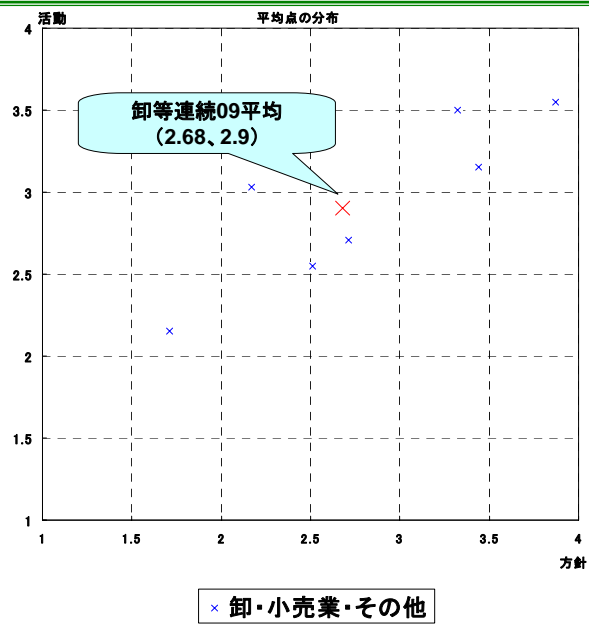
3-5-4. 物流子会社(連続回答企業(20社)09年度+新規企業、平均)



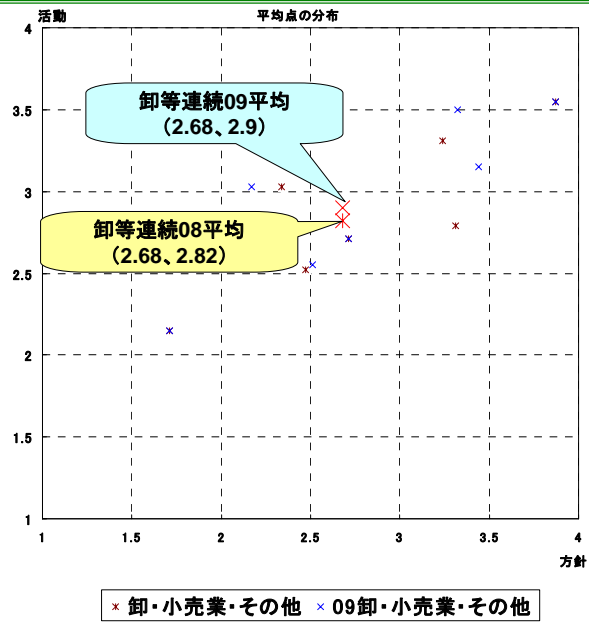
3-6-1. 卸等(連続回答企業(7社)08年度、平均)



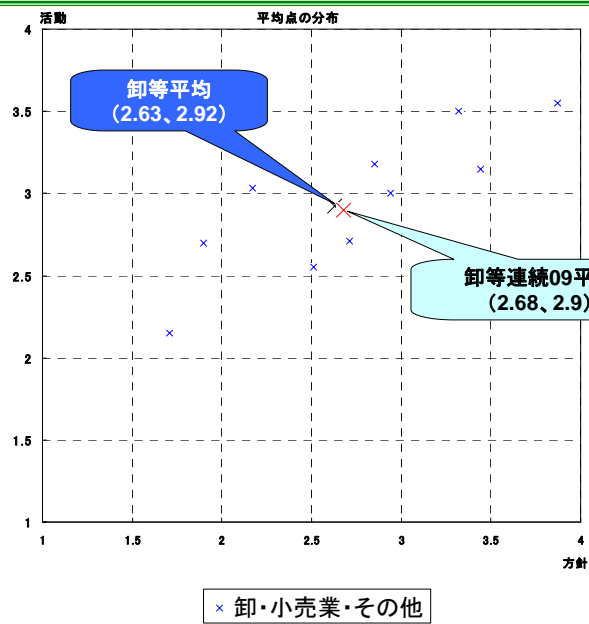
3-6-2. 卸等(連続回答企業(7社)09年度、平均)



3-6-3. 卸等(連続回答企業(7社)0809年度、平均)



3-6-4. 卸等(連続回答企業(7社)09年度+新規企業、平均)



3-7. 連続回答企業の方針/活動の増減

		活動平均			合計
		増加	±0	減少	
方針平均	増加	34	5	4	43
	±0	4	6	1	11
	減少	4	1	9	14
合計		42	12	14	68

* 68社中43社(63%)がこの1年間で点数が伸びた。

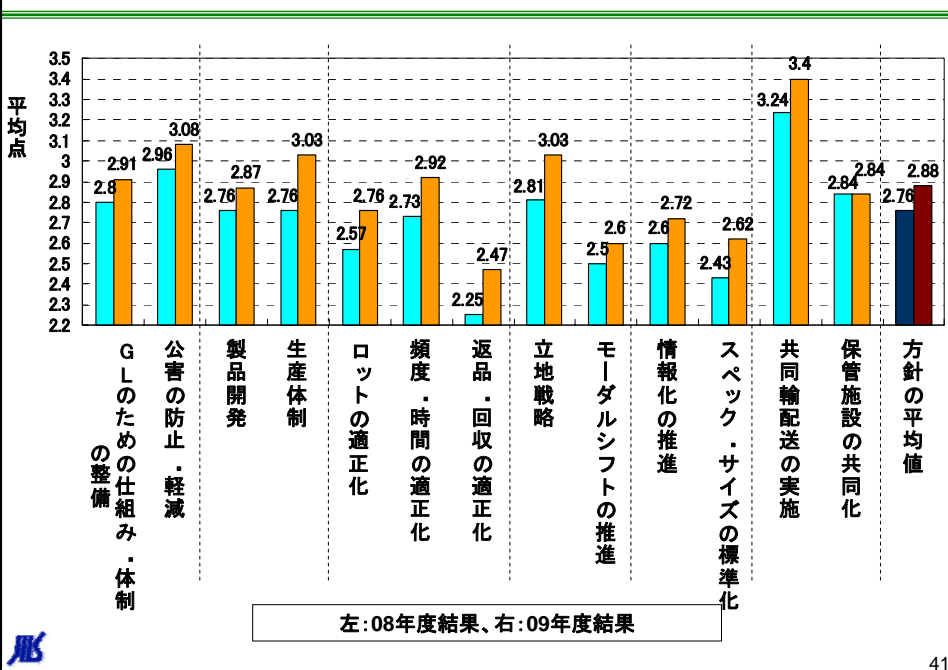


【目的2】 施策の難易度を探る

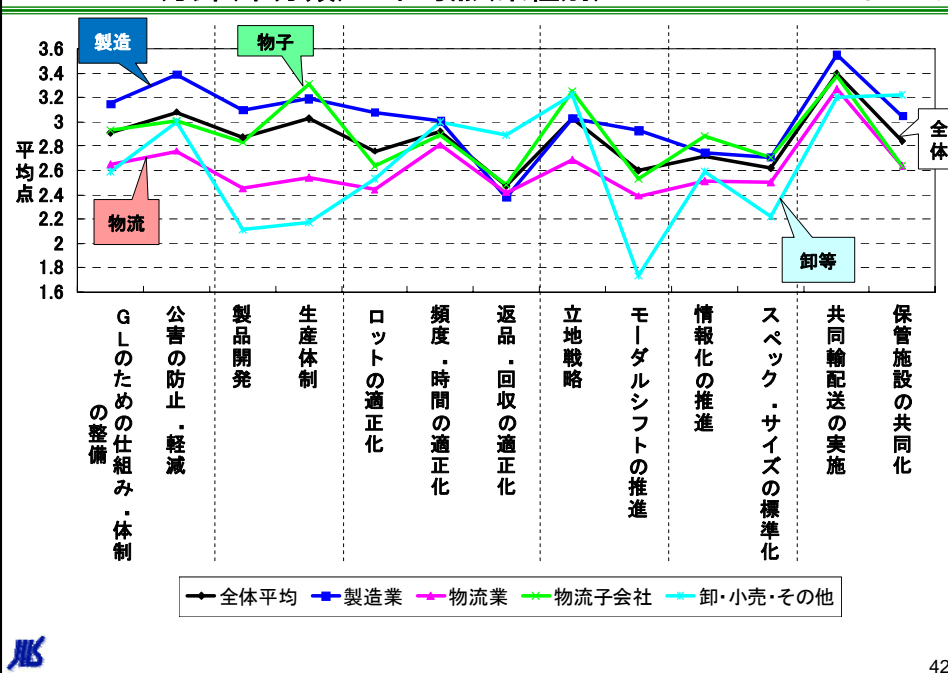
- ・中分類結果(全社・業種別)
- ・回答分布(5分類)
- ・施策のポジショニング



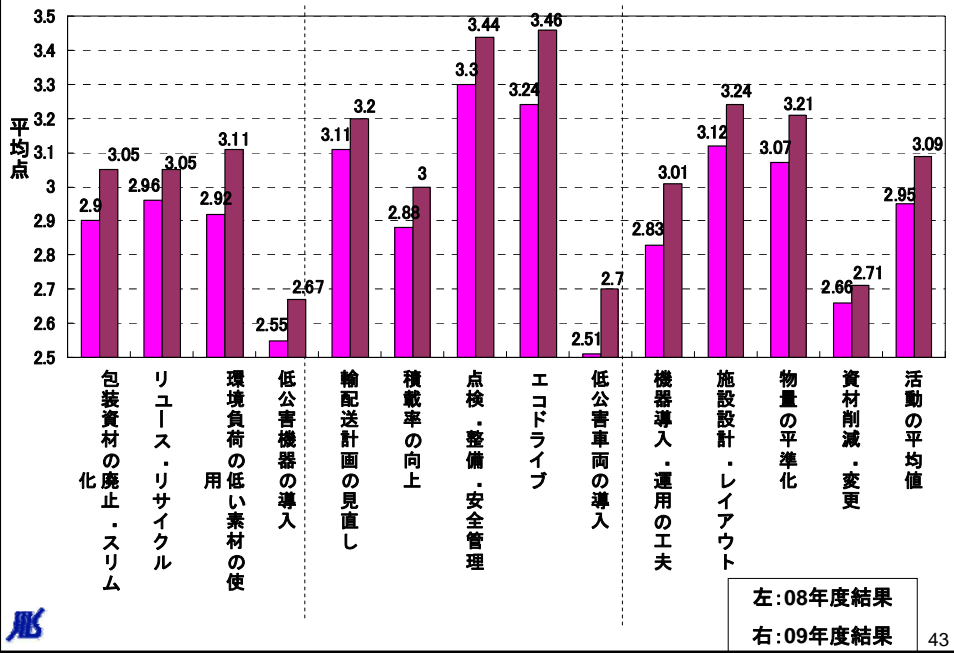
4-1-1. 方針(中分類)の平均点(全体_前年度との比較)



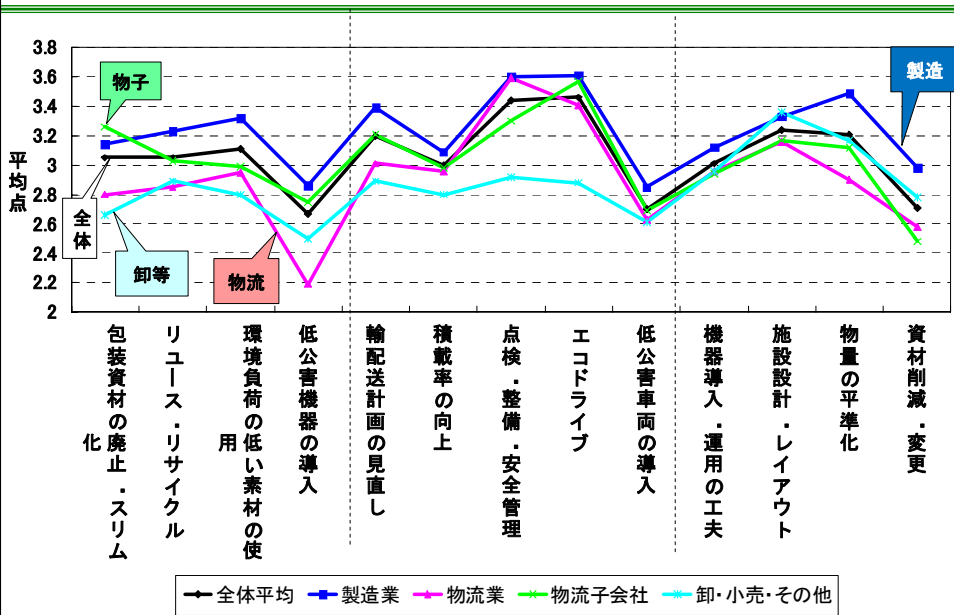
4-1-2. 方針(中分類)の平均点(業種別)



4-2-1. 活動(中分類)の平均点(全体_前年度との比較)



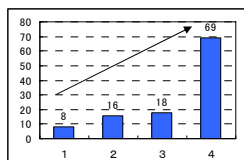
4-2-2. 活動(中分類)の平均点(業種別)



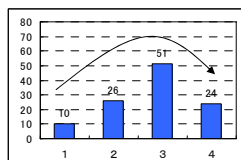
4-3-1. 回答分布の分類の考え方

- 86の施策全てを対象に、回答「0（該当しない）」を除いた、レベル1から4の波形に基づき、**下記5パターンに分類**

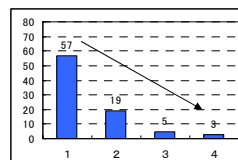
【普及完了型】



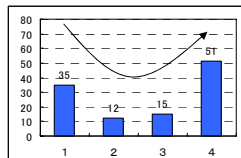
【普及途上型】



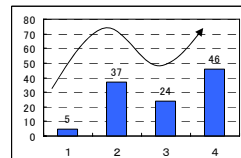
【初動型】



【制約型】



【波型】



4-3-2. 回答分布の分類の結果

タイプ	09年度結果	08年度からの増減	取組の容易さ	特徴等
普及完了	28	+3	◎	・レベル4目指した活動、レベル4取組の浸透
普及途上	42	+7	○	・レベル2もしくは3で取り組みが止まっている ・阻害要因の把握、除去 ・レベル4取組の浸透
初動型	2	-1	×	・時期尚早？ 設問そのものの妥当性再検討
制約型	4	±0	△	・制約多い？(疎外項目の有無 分析必要)、 ・一気に最後まで
波型	10	-9	?	・上記タイプの合成型 ・内容や実態の分析必要

全86項目

→波型が減少して、普及途上型、普及完了型が増加

◇普及完了型の項目(その1)			
大	中	No	チェック項目
1.1	①	1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。
1.1	①	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。
1.1	①	4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。
1.1	①	8	ロジスティクス分野において、法令遵守徹底に向けて取り組みをしている。
1.1	①	9	ISO14000sを取得している(自己宣言相当の活動をしている)。
1.1	①	13	輸配送に係る環境パフォーマンスを算定している。
1.1	①	15	グリーンロジスティクス推進のため、グループ企業、取引先、業界団体と共同で取り組んでいる。
1.1	①	16	協力会社(備車先等)に対し、環境配慮のための育成・指導を行っている。
1.2	①	23	包装資材の削減を考慮した製品開発を実施している。
1.5	①	40	輸配送車両の削減や積載率を高めるために、共同輸配送を実施している。

47

◇普及完了型の項目(その2)			
大	中	No	チェック項目
2.1	①	42	使用包装資材包装形態を簡易化(通い箱、ハンガー輸送、部分包装など)している。
2.1	①	43	包装形態を簡易化(通い箱、ハンガー輸送、部分包装など)している。
2.1	①	45	未使用時も減容化しやすい包装材(折りたたみ式通い箱など)を採用している。
2.1	②	48	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用している。
2.1	②	49	包装資材の再使用、再資源化、廃棄を考慮して、素材を変更している。
2.1	②	51	有害物質を含まない包装資材を使用している。
2.2	①	54	配送において、物量に応じて、車種、車数、配送ルート、配送回数をきめ細かく見直し、配車計画に反映させている。
2.2	②	61	車両の積載効率向上のために、二段化等、積載方法を工夫している。
2.2	③	62	タイヤ空気圧の測定・補充を定期的に行っている。
2.2	③	63	エアフィルターの点検・清掃・交換を定期的に行っている。
2.2	③	64	排気ガスの色を目視で確認している。
2.2	④	65	エコドライブに係るマニュアル等を用いて、エコドライブ活動を実施している。
2.2	④	66	デジタコ等を活用し、ドライバーへエコドライブ指導を実施している。
2.3	①	70	エコタイヤを導入している。
2.3	①	73	効率的な人員配置と機器運用により、稼働時間の短縮を実現している。
2.3	②	76	入荷と出荷の車両が混雑・交錯・滞留しないように、施設・レイアウト設計の工夫、もしくはタイムスケジュール管理を行っている。
2.3	②	82	冷蔵・冷凍倉庫において、できるだけ外気が侵入しないように工夫している。
2.3	③	84	入庫量、出庫量、保管量を平準化し、保管スペースをコンパクトにしている。

48

◇初動型の項目			
大	中	No	チェック項目
1.1	①	10	エコアクション21を取得している(自己宣言相当の活動をしている)。
2.2	⑤	71	バイオマス燃料を利用している

◇制約型の項目			
大	中	No	チェック項目
1.1	①	18	ロジスティクス分野における環境に対する取り組みを環境報告書や環境レポート等に記載している。
2.1	①	46	無包装化に取り組んでいる。
2.3	②	77	積みおろしに伴う待ち時間のアイドリングを防止するため、ドライバー控室を設置している。
2.3	②	83	冷蔵・冷凍保存が必要な商品が過剰冷却にならないようにしている。

◇波型の項目			
大	中	No	チェック項目
1.1	①	6	ロジスティクス活動において発生する環境負荷の項目を把握している。
1.1	①	11	グリーン経営認証を取得している(自己宣言相当の活動をしている)。
1.1	①	14	包装に係る環境パフォーマンスを算定している。
1.1	①	19	グリーンロジスティクス推進に寄与する、行政等の各種支援策を把握し、活用している。
1.2	①	26	積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といったことに対応した生産体制を構築している。
1.3	①	27	取引先と協力し、取引基準を設定(取引単位を物流単位と整合化するなど)している。
1.5	①	37	標準物流EDI(JTRNなど)を利用し、配送伝票を電子化している。
1.5	①	38	標準輸送ラベルを使用している。
2.3	②	80	荷物積みおろし中の冷凍車のアイドリング防止のため、保冷車用のコンセントを設置している。
2.3	②	81	冷蔵・冷凍倉庫において、代替フロン(HFC)や自然冷媒を使用している。

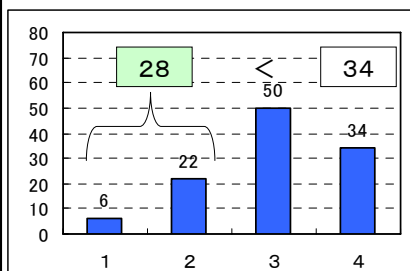
49

4-3-3. 普及途上型の分類

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

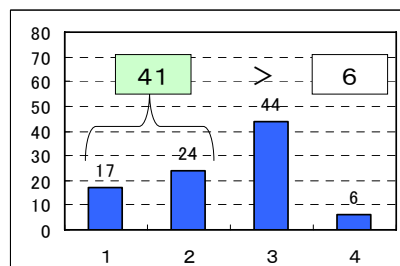
- 普及途上型に該当する42施策のうち、レベル1+レベル2とレベル4の回答数の大小から、**下記2パターンに分類**

【普及途上型 I型:21施策】



レベル4への移行が困難

【普及途上型 II型:21施策】



レベル3までの移行が困難

→ II型の方が困難な施策と考えられる。

50

◇普及途上型(I型)の項目			
大	中	No	チェック項目
1.1	①	3	グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。
1.1	②	20	輸送機関(トラック、船舶等)の大気汚染の防止、軽減の施策を実施している。
1.1	②	22	水質汚濁の防止、軽減の施策を実施している。
1.2	①	24	輸送効率を考慮した製品開発を実施している。
1.3	②	29	取引先と協力し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。
1.3	②	31	入出荷時間を定刻化し、車両の待機時間を短縮している。
1.4	①	33	環境負荷を考慮に入れた拠点配置を進めている。
1.5	①	36	実需要に即応した体制、又は需要予測の精度を向上させ、無駄な生産、在庫、輸送を削減している。
2.1	③	50	再生素材を原料とする包装資材を使用している(バージン素材を使用しない)。
2.2	①	53	現状の輸送量やリードタイム等を勘案し、環境負荷の少ない輸送手段の使用を定期的に検討している。
2.2	①	55	輸送において、輸送先、輸送量に応じて拠点経由と直送を使い分け、全体で輸送効率を向上している。
2.2	①	56	便数削減のために、トラックの大型化、トレーラー化をすすめている。
2.2	②	57	帰り荷の確保のための工夫(求貨求車システムの導入等)をしている。
2.2	②	58	輸送・取引単位が小ロットの場合は混載や共同輸送を利用している。
2.2	②	59	得意先への配送の際には、他社との共同配送により積載率を高めている。
2.2	⑤	68	最新の排気ガス規制に対応したトラックを前倒しで導入している。
2.3	①	74	環境負荷の低減を考慮して、物流機器の使用の制限や適切な能力の機器の選択を行っている。
2.3	②	75	物流量の変動並びに作業動線を考慮して、倉庫レイアウト、あるいは在庫レイアウトを変更している。
2.3	②	78	電力設備、照明、空調に省エネ機器を導入している。
2.3	②	79	ラック、ネステナー、パレットサポーター等によって保管効率を向上させる工夫をしている。
2.3	③	85	不動在庫、不良在庫等の無駄な在庫を削減し、保管スペースをコンパクトにしている。

51

◇普及途上型(II型)の項目			
大	中	No	チェック項目
1.1	①	5	グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育(人材育成)を行っている。
1.1	①	7	海外拠点を含めて、ロジスティクス分野における環境対策を実施している。
1.1	①	12	ロジスティクス活動に伴って発生する廃棄物の再資源化に向けて取り組んでいる。
1.1	①	17	物流拠点の周辺住民と共に、環境負荷(騒音、振動、ゴミ等)の軽減に向けた取り組みを実施している。
1.1	②	21	騒音・振動の防止、軽減の施策を実施している。
1.2	②	25	物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。
1.3	①	28	取引先にインセンティブ(ロット割引等)を提供して、輸送単位を大きくするように誘導している。
1.3	②	30	取引先と協力し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。
1.3	③	32	返品抑制のために、返品物流費の有償化や売買契約(納品条件)の見直し等の施策を実施している。
1.4	②	34	輸送に鉄道を利用している。
1.4	②	35	輸送に船舶(フェリーを含む)を利用している。
1.5	②	39	ユニットロードシステムを導入している。
1.6	②	41	物流拠点を他社と共同で利用している。
2.1	①	44	小箱包装を廃止して大箱にまとめている。
2.1	②	47	運搬容器やパレットのリユースについて、全社でシステム化し管理している。
2.1	④	52	省エネ型、低公害型の包装用機器を導入している。
2.2	②	60	調達物流においてミルクラン方式(共同運行含む)を利用している。
2.2	⑤	67	クリーンエネルギー自動車を導入している。
2.2	⑤	69	エンジン停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を使用している。
2.3	①	72	環境負荷の高い物流機器を削減し、省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入している。
2.3	④	86	ラベルやラベルインキ、テープ、養生資材等の購入の際に、素材を考慮している(グリーン購入)。

52

4-4-1. 輸送に関する施策の結果		ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
		平均点
2.2③整備		62:タイヤ空気圧(3.6) 63:エアフィルター(3.5) 64:排気ガス目視(3.3)
2.2④エコドライブ		65:エコドライブ活動(3.5) 66:エコドライブ指導(3.4)
2.2⑤ハード	71:バイオ燃料(1.8)	70:エコタイヤ(3.1) 68:排気ガス対応車(3.0) 67:クリーンエネルギー自動車(2.9)
2.2①輸配送計画		56:大型化(3.1) 54:きめ細かい配車計画(3.4) 53:定期検討(3.0) 61:積載方法工夫(3.3) 55:直送化と拠点経由 使い分け(3.2)
2.2②積載率向上	60:調達物流 (ミル克蘭)(2.4)	57:帰り荷確保(3.1) 58:混載、共同輸送(3.0) 59:共同配送(3.0)
1.2 生産等		24:輸送効率考慮製品開発(3.0) 26:積載率等考慮生産体制(3.0)
1.3 商取引 (取引先)	30:ピーク平準化(2.6) 28:大ロット化(2.7) 27:取引基準設定(2.8)	29:頻度、LT見直し(3.0) 31:定刻化待機時間削減(3.1)
1.5 モーダル	34:鉄道(2.4) 35:船舶(2.7)	

53

4-4-2. 輸送に関する施策の結果(コメント)		ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
		平均点
2.2③整備		62:タイヤ空気圧(3.6) 63:エアフィルター(3.5) 64:排気ガス目視(3.3)
2.2④エコドライブ		65:エコドライブ活動(3.5) 66:エコドライブ指導(3.4)
2.2⑤ハード	71:バイオ燃料(1.8)	70:エコタイヤ(3.1) 68:排気ガス対応車(3.0) 67:クリーンエネルギー自動車(2.9)
2.2①輸配送計画	← 物流部門でも可能だが効果を出すには他部門、他社連携必要	56:大型化(3.1) 54:きめ細かい配車計画(3.4) 53:定期検討(3.0) 61:積載方法工夫(3.3) 55:直送化と拠点経由 使い分け(3.2)
2.2②積載率向上	60:調達物流 (ミル克蘭)(2.4)	57:帰り荷確保(3.1) 58:混載、共同輸送(3.0) 59:共同配送(3.0)
1.2 生産等	← 他社連携必要	24:輸送効率考慮製品開発(3.0) 26:積載率等考慮生産体制(3.0) ← 他部門連携
1.3 商取引 (取引先)	30:ピーク平準化(2.6) 29:頻度、LT見直し(3.0) 28:大ロット化(2.7) 31:定刻化待機時間削減(3.1) 27:取引基準設定(2.8)	
1.5 モーダル	34:鉄道(2.4) ← 他社連携も必要であるが、利便性、インフラ整備等? 35:船舶(2.7)	

54

4-4-3. 包装に関する施策の結果		ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
		平均点
2.1④低公害機器導入	52:省エネ・低公害型機器(2.7)	
2.1③低環境負荷素材	49:再資源化等を考慮した素材変更(3.0) 50:再生素材使用(2.9)	51:有害物質含まない素材使用(3.4)
2.1②リユース、リサイクル	47:リユースをシステム化管理(2.7)	48:リターナブル、リサイクル可能な資材等使用(3.2)
2.1①廃止・スリム化	44:大箱化(2.6) 46:無包装化(2.3)	42:薄肉化軽量化(3.2) 43:簡易化(通い箱等)(3.2) 45:未使用時減容化採択(3.1)
1.2①生産等	(24:輸送効率考慮製品開発(3.0))	23:包装削減考慮製品開発(3.3)
1.3 商取引	27:取引基準設定(2.8) 28:大ロット化(2.7)	
1.1 GL仕組み・体制	14:包装の環境パフォーマンス(2.4) 12:ロジ活動廃棄物再資源化(2.8)	
		55

4-4-4. 包装に関する施策の結果(コメント)		ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
		平均点
2.1④低公害機器導入	52:省エネ・低公害型機器(2.7)	
2.1③低環境負荷素材	49:再資源化等を考慮した素材変更(3.0) 50:再生素材使用(2.9)	51:有害物質含まない素材使用(3.4)
2.1②リユース、リサイクル	47:リユースをシステム化管理(2.7)	48:リターナブル、リサイクル可能な資材等使用(3.2)
2.1①廃止・スリム化	44:大箱化(2.6) 46:無包装化(2.3)	42:薄肉化軽量化(3.2) 43:簡易化(通い箱等)(3.2) 45:未使用時減容化採択(3.1)
1.2①生産等	(24:輸送効率考慮製品開発(3.0))	23:包装削減考慮製品開発(3.3)
1.3 商取引	27:取引基準設定(2.8) 28:大ロット化(2.7)	
1.1 GL仕組み・体制	14:包装の環境パフォーマンス(2.4) 12:ロジ活動廃棄物再資源化(2.8)	
		56

投資等のコスト

物流部門主導で可能

他社との調整必要

物流センターでは、包装材が多数?

4-4-5. 荷役・保管・流通加工に関する施策		ロジスティクス環境会議 Conference on Green Logistics in Japan
		平均点
2.3④資材	76:ラベル等の資材素材 考慮(2.7)	
2.3①機器導入・運用工夫	74:使用制限・機器選択(2.8) 72:省エネ・低公害型機器(2.9) 73:人員配置・機器運用(3.1)	
2.3②施設設計・レイアウト	78:電力設備等 省エネ機器(3.2) 77:控室設置(3.3) 76:入出荷車輛 滞留防止のための タイムスケジュール管理 (3.5) 75:倉庫・ 在庫レイアウト変更(3.3) 79:保管効率向上(3.3)	
2.3③物量の平準化	84:平準化による 保管スペース コンパクト化(3.1) 85:不動在庫削減に よる保管スペース コンパクト化(3.3)	
1.5⑤情報化	36:無駄な生産、在庫、 輸送削減(3.1)	

57

4-4-6. 荷役・保管・流通加工に関する施策(コメント)		平均点
2.3④資材	76:ラベル等の資材素材 考慮(2.7)	
2.3①機器導入・運用工夫	74:使用制限・機器選択(2.8) 72:省エネ・低公害型機器(2.9) 73:人員配置・機器運用(3.1)	
2.3②施設設計・レイアウト	78:電力設備等 省エネ機器(3.2) 77:控室設置(3.3) 76:入出荷車輛 滞留防止のための タイムスケジュール管理 (3.5) 75:倉庫・ 在庫レイアウト変更(3.3) 79:保管効率向上(3.3)	
2.3③物量の平準化	84:平準化による 保管スペース コンパクト化(3.1) 85:不動在庫削減に よる保管スペース コンパクト化(3.3)	
1.5⑤情報化	36:無駄な生産、在庫、 輸送削減(3.1)	

58

3. 今後の予定



今後の予定

- ①ホームページでの結果掲載
- ②JILS機関誌「ロジスティクスシステム」への紹介
- ③トライアル診断(仮称)の実施 (4月頃から予定)
 - * 未回答企業を対象に今年度の回答企業114社との比較結果の診断

「グリーンロジスティクスチェックリスト」のページ

<http://www.logistics.or.jp/green/report/08checklist.html> にアクセス



